

ニュースご紹介・ご取材のお願い

米国アカデミー賞公認 アジア最大級の国際短編映画祭ショートショート フィルムフェスティバル & アジア 2015

東南アジアショートフィルムの“熱さ”に触れる新プログラム開催決定 6カ国作品を無料上映、東南アジアを代表するショートフィルム関係者が集結

6月4日(木)から開催となります米国アカデミー賞公認、アジア最大級の国際短編映画祭ショートショート フィルムフェスティバル & アジア 2015 (SSFF & ASIA)は、東京オリンピック・パラリンピックが開催される2020年に向けて、日本とアジア諸国との文化交流を促進、強化するさまざまな事業を実施する国際交流基金(ジャパンファウンデーション)アジアセンターと共催で2015年および2016年の2年にわたり、東南アジア11カ国の短編映画の作品上映と、各国の短編映画関係者による国際シンポジウムを開催いたします。初年度となる本年は、6カ国(カンボジア・インドネシア・ラオス・シンガポール・東ティモール・フィリピン)の作品を取り上げます。

東南アジアでもその制作熱が高まっているショートフィルム。作品上映やショートフィルム関係者によるシンポジウムを通じて、日本ではまだ知られることが少ない東南アジアの「今」に迫ります。

報道関係者のみなさまにおかれましては、ぜひ本件告知にご協力を頂きますと幸いです。また、ご多忙のところ誠に恐縮ではございますが、シンポジウムへのご参加・ご取材を頂きますようお願い申し上げます。取材申込みは、別添の「取材申込書」にて、ご出欠を6月6日(土)18時までにご返信いただけますと幸いです。



『雨あがれ』(SEPATU BARU On Stopping the Rain)[インドネシア]



『父の手形』(Father's Handprint)[ラオス]

東南アジアプログラム & シンポジウム ~東南アジアのショートフィルムの現状と展望~

<上映> ※一部作品については監督のアフタートークあり

【日時/会場】	6月5日(金)	15:40~17:30	シダックス・カルチャーホール
	6月7日(日)	11:20~13:10	表参道ヒルズ スペース オー
	6月8日(月)	17:50~19:40	プリリア ショートショート シアター
	6月10日(水)	15:40~17:30	プリリア ショートショート シアター
【参加費】	無料		

<シンポジウム>

【日時/会場】	6月7日(日)	13:30~15:20	表参道ヒルズ スペース オー
【参加費】	無料		
【特設サイト】	http://www.shortshorts.org/southeast-asia/		
※上映作品、シンポジウム概要、来日ゲストの情報など、詳細は次頁以降および上記特設サイトをご覧ください。			
【主催】	国際交流基金アジアセンター、ショートショート実行委員会		

【本発表に関するお問い合わせ先】

ショートショート フィルムフェスティバル & アジア事務局(ユース・プランニング センター内)

担当: 白岩(070-6469-1245)・音部(090-2316-7879) TEL: 03-3486-0575 / FAX: 03-3499-0958 e-mail: ssffasia2015@ypcpr.com

【ショートショート フィルムフェスティバル & アジアに関するお問い合わせ先】

担当: 高橋(090-3049-1284) 加賀矢間 TEL: 03-5474-8201 / FAX: 03-5474-8202 e-mail: press@shortshorts.org

国際交流基金アジアセンターは、アジア域内に住む人々の間に、共に生きる隣人としての共感、共生の意識を育んでいくことを目指し、文化事業、知的交流事業、日本語教育事業をはじめとした幅広い分野で、日本とアジア諸国との交流と協働を促進、強化するさまざまな活動を行っています。東南アジア地域を主な対象とする交流事業や調査・研究活動等を支援する助成プログラムも実施しています。詳細はウェブサイトをご覧ください。<http://jfac.jp/>

東南アジアプログラム上映作品(全6作品)

作品ラインアップ一覧 (上映順)



『握りしめた石ころ』 (Fistful of Peebles)

監督: Somchanrith Chap / カンボジア / 6:59 / 2014

あらすじ

“グッド・バッド・ビューティフル” —カンボジア初のウェスタン映画！



『雨あがれ』 (SEPATU BARU / On Stopping the Rain)

監督: Aditya Ahmad / インドネシア / 14:00 / 2013

あらすじ

少女はインドネシアの風習にならって、雨を止めようとするが・・・。



『父の手形』 (Father's Handprint)

監督: Kesone Keola / ラオス / 7:00 / 2015

あらすじ

ラオスの伝統舞踊の継承をめぐるぶつかり合う、父と息子の物語。



『マダム・タンの秘密の情熱』

(The Secret Passion of Mdm Tan Ah Lian)

監督: Sun Koh / シンガポール / 16:09 / 2014

あらすじ

マダム・タンには作家という秘密の顔がある。



『闘鶏』 (The Cock Fight)

監督: Bety Reis / 東ティモール / 11:00 / 2011

あらすじ

東ティモールの闘鶏場に潜入。



『オフエリアのために』 (For Ofelia)

監督: Christopher de las Alas / フィリピン / 15:00 / 2014

あらすじ

女の子が欲しい母親と息子のお話。

東南アジアでは、日本や諸外国と同様に、近年のデジタルビデオカメラや映像制作ソフトの普及により、映像制作が身近なものとなり、作品は益々増えています。今回のシンポジウムでは、勢いが加速する東南アジアでの、映画産業全体におけるショートフィルムの位置づけ、制作方法、若手育成への取り組みなどについて、欧米を含む各国の短編映画業界を代表するパネリストが議論します。



カンボジア: Chea Sopheap (チェア・ソピアップ)
オーディオビジュアル・リソース・センター ディレクター補佐

カンヌ映画祭の「ある視点部門」グランプリ受賞監督でもあるリティ・パン* (Rity Panh)が代表を務めるボパナ視聴覚リソースセンターのアーキビストを経て、現職。同センターにおける10年以上のキャリアの中で、視聴覚資料の収集及びそれらの資料を活用した文化イベントや、展覧会の実施や、カンボジア国内での数々の映画祭の企画・運営に携わる。

*「リティ・パニユ」と表記されることもありますが、ご本人のご希望により「リティ・パン」と表記しております。



インドネシア: Yosep Anggi Noen (ヨセプ・アング・ノエン)
映画監督/プロデューサー

インドネシア・ジョグジャカルタにあるガジャ・マダ大学にて、政治とコミュニケーション学を学ぶ。アジア・フィルム・アカデミーより奨学金を受け、2014年のベルリン国際映画祭のタレントキャンパスに参加。彼が脚本を手がけた『Blossom』は韓国で製作され、釜山国際映画祭で上映。その後も数々のショートフィルムとドキュメンタリー作品を制作。『ホールインワンを言わない女』はショートショート フィルム フェスティバル & アジア 2014にてグランプリを獲得。現在は、ジョグジャカルタにてインディペンデント映像制作会社 Limaenam Filmsを経営。



ラオス: Athidxay Bouandaheang (アーティッドサイ・ポーンダーオファン)
「DOKLAOセンター」代表 / 「Lao New Wave Cinema Production」共同設立者、プロデューサー

ラオス国立大学を卒業後、インドのディア・パーク・インスティテュートにて、ドキュメンタリー映画の製作を学ぶ。現在は、ラオスの農村に暮らす子供たちにニュース報道やラジオ放送、映像制作など総合的なメディア教育を実施する「DOKLAO」を主宰している。また、2009年より現地の国際映画祭である「ヴィエンチャナーレ」に主催者として参加したり、ラオス初のインディペンデント映像制作会社「Lao New Wave Cinema Production」の共同設立者として長編映画のプロデューサーも務めるなど、急速に進化するラオスの映画産業に多面的に関わっている。



シンガポール: Derek Tan (デレック・タン)
「Vidsee.com」共同創設者

映画監督、編集者として映像制作に携わるほか、アジアのショートフィルムのオンライン・ビデオ・プラットフォーム「Vidsee.com」の共同創設者でもある。監督作品に『CASHLESS』(2009)、『Minute』(2007)、『Crack』(2006)。様々な技術を通じて、メディアの消費のあり方を変化させることを目標に活動している。



ケベック、カナダ: Marie-Élaine Riou (マリー・イレーン・リウ)
サグネ国際短編映画祭 ショートフィルム選考員、ショートフィルムマーケットディレクター

カナダ・ケベック州出身のマリー・イレーン・リウは、モントリオール(カナダ)、バルセロナ(スペイン)そしてバルセロナ(アルゼンチン)で映画を学び、各国の学生短編映画製作において、プロダクション統括や、助監督なども経験。大学での経験を活かし、2012年からはカナダ・ケベック州で開催されているサグネ国際短編映画祭において、ショートフィルムの選考員として活躍しているほか、同映画祭のショートフィルムマーケットにおけるディレクターを担当。2015年2月には、ウェブシリーズとして「Mea Culpa」を地元の芸術団体と立ち上げた。



フランス: Bertrand Rouchit (ベルトラン・ルーシ)
クレルモンフェラン国際短編映画祭子供プログラム統括

1974年、クレルモンフェラン(フランス)生まれ。ベルトラン・ルーシは大学で法律を専攻し卒業後、クレルモンフェラン・シネマテークで映像制作会社「Comme une image... (「イメージのように」)」を共同設立。その後、Videoformesフェスティバルという映像祭に長年携わり、現在はクレルモンフェラン国際短編映画祭(CFISFF)にて5年、映画祭業界には10年以上も従事。現在、CFISFFでは「子供プログラム」の統括と、「アフリカ」のショートフィルム特集を担当。また、コンペティションでは国内部門(フランス)の選考員も務める。

■各会場における開催期間

<東京会場>

表参道ヒルズ スペース オー	6月4日(木) オープニングセレモニー
	6月5日(金)～6月7日(日)
シダックス・カルチャーホール	6月5日(金)～6月7日(日)、6月11日(木)～6月14日(日)
アンダーズ 東京 アンダーズ スタジオ	6月8日(月)～6月12日(金)
ラフォーレミュージアム原宿	6月11日(木)～6月14日(日)
iTSCOM STUDIO & HALL 二子玉川ライズ	6月12日(金)～6月14日(日)
渋谷ヒカリエ ヒカリエホールA	6月15日(月) アワードセレモニー(授賞式)

<横浜会場>

ブリリア ショートショート シアター	6月5日(金)～6月14日(日) (横浜開催)
--------------------	-------------------------

※上映期間は6月4日(木)～6月14日(日)です。上映会場は(渋谷ヒカリエを除く)東京5会場、横浜1会場となります。

※オープニングセレモニー、アワードセレモニーは一般の方は参加できません。

		表参道ヒルズ スペース オー	シダックス・カル チャーホール	アンダーズ 東京 Andaz Studio	ラフォーレ ミュージアム原宿	iTSCOM STUDIO & HALL 二子玉川ライズ	ブリリア ショートショート シアター	渋谷ヒカリエ ヒカリエホールA
6月4日	木	★ オープニング セレモニー						
6月5日	金	●	●				●	
6月6日	土	●	●				●	
6月7日	日	●	●				●	
6月8日	月			●			●	
6月9日	火			●			●	
6月10日	水			●			●	
6月11日	木		●	●	●		●	
6月12日	金		●	●	●	●	●	
6月13日	土		●		●	●	●	
6月14日	日		●		●	●	●	
6月15日	月							★ アワード セレモニー (授賞式)

■一部の有料イベントを除き、東京会場、横浜会場ともに無料上映となります。

※事前予約は公式サイトから登録が可能です。

※上映プログラム・イベントは決定次第、順次公式サイトにアップします。

■東京会場限定 スペシャルパスポート

4,000円(映画祭オリジナルグッズ付)

下記東京3会場の有料イベント以外の全てのプログラムを事前予約・回数制限なくご覧いただけます。

(表参道ヒルズ スペース オー、ラフォーレミュージアム原宿、iTSCOM STUDIO & HALL 二子玉川ライズ) チケット販売はオンラインにて受け付けます。詳細は映画祭公式サイトをご確認ください。

※キャンセルによる払い戻しの手数料はお客様負担になりますので、予めご了承ください。

■ショートショートフィルムフェスティバル & アジアについて

米国アカデミー賞公認、日本発・アジア最大級の国際短編映画祭。新しい映像ジャンルとして「ショートフィルム」を日本に紹介するため、米国俳優協会(SAG)の会員でもある俳優の別所哲也が、創立者として1999年に東京・原宿で誕生。初年度は映画『スターウォーズ』で有名なジョージ・ルーカス監督の学生時代のショートフィルムも6作品上映し、その後も毎年応援を頂いています。2001年には「ショートショート フィルムフェスティバル(SSFF)」と名称を改め、2004年には米国アカデミー賞公認映画祭として認定されました。これにより、映画祭のグランプリ作品が、次年度のアカデミー賞短編部門のノミネート選考に入ることになり、日本からオスカー像を手にする若手が出現する可能性への架け橋ができました。

また、アジア発の新しい映像文化の発信・新進若手映像作家の育成目的から同年に誕生した「ショートショート フィルムフェスティバル アジア(SSFF AISA 共催:東京都)」が誕生し、現在、この2つの映画祭が“SSFF & ASIA”として開催されています。上映内容は、オフィシャルコンペティションをはじめ、「音楽」「環境」「CGアニメーション」など、様々なカテゴリーのプログラムで構成されています。2008年には、横浜みなとみらいにショートフィルム専門映画館、ブリリア ショートショート シアターを設立。映画祭としてはこれまでに延べ28万人を動員。日本にショートフィルムを啓蒙する役割を果たすべくその活動領域を広げるとともに、世界に羽ばたく若きクリエイターを本映画祭は応援していきます。

FAX返信先:03-3499-0958 【申込締切】6月6日(土)18時

米国アカデミー賞公認 アジア最大級の国際短編映画祭ショートショート フィルムフェスティバル & アジア 2015

東南アジアプログラム & シンポジウム ～東南アジアのショートフィルムの現状と展望～

日時 : 2015年6月7日(日) 13:30～15:20 (※受付:13:00～)

パネリスト : チェア・ソピアップ(カンボジア)、ヨセブ・アンギ・ノエン(インドネシア)
 アーティッドサイ・ポーンダーオファン(ラオス)、デレック・タン(シンガポール)
 マリー・イレーン・リウ(ケベック、カナダ)、ベルラン・ルーシ(フランス)

会場 : 表参道ヒルズ スペース オー
 東京都渋谷区神宮前4-12-10 表参道ヒルズ地下3階
 東京メトロ銀座線、千代田線、半蔵門線「表参道駅」A2出口より徒歩2分
 東京メトロ千代田線「明治神宮前駅」5出口より徒歩3分
 JR山手線「原宿駅」表参道口より徒歩7分

※ムービー・スチールともに先着順とさせていただきます。

※お手数ですが下記項目をご記入の上、上記記載の返信先までFAXでご連絡いただけますと幸いです。

貴社名		
貴媒体名		
部署名・役職名	部署名	役職名
ご担当者名・人数		
TEL・FAX	TEL	FAX
E-MAIL	@	
撮影有無	<input type="checkbox"/> 有 ムービー(台) スチール(台) ペン(人) <input type="checkbox"/> 無	

SSFF & ASIA 2015オフィシャルサイト <http://www.shortshorts.org/>

【本発表に関するお問い合わせ先】

ショートショート フィルムフェスティバル & アジア事務局(ユース・プランニング センター内)

担当: 白岩(070-6469-1245)・音部(090-2316-7879) TEL: 03-3486-0575 / FAX: 03-3499-0958

e-mail : ssffasia2015@yppcr.com

【ショートショート フィルムフェスティバル & アジアに関するお問い合わせ先】

ショートショート実行委員会 担当: 高橋(090-3049-1284) 加賀矢間

TEL: 03-5474-8201 / FAX: 03-5474-8202 e-mail : press@shortshorts.org